

アイヌ生活文化再現マニュアル

ヘカッタラ シノツ

【子どもたちの遊び】

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の創設以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及と啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

はじめに	7
アカム・カチュ（輪突き） ウコ・カリプ・チュイ（投輪突き）	9
【道具のつくり方】 カリプ（つる輪）（平取）	11
材料の採取	11
つくり方	12
【道具のつくり方】 カリプ（つる輪）（阿寒）	15
材料の採取	15
つくり方	17
【道具のつくり方】 カリプペカプ（輪刺し）	20
材料とつくり方	20
【遊び方】 アカム・カチュ（輪突き）	21
【遊び方】 ウコ・カリプ・チュイ（投輪突き）	22
ウコ・カリ・カチュ（ケン玉遊び）	24
遊び方	24
ク・エ・シノッ（的射ち・輪射ち）	26
【道具のつくり方】 ク（弓）（平取）	26
材料の採取	26
つくり方	28
【道具のつくり方】 ク（弓）（阿寒）	30
材料と道具	30
つくり方	31
【道具のつくり方】 アイ（矢）（平取）	33
つくり方	33
【道具のつくり方】 アイ（矢）（阿寒）	34
材料と道具	34
つくり方	34
【遊び方】 ク・エ・シノッ（的射ち）（阿寒）	36
【遊び方】 ク・エ・シノッ（的射ち）（平取）	38
【遊び方】 ク・エ・シノッ（輪射ち）（平取）	39

オペ・シノッ (ニッキ遊び)	40
材料の採取とつくり方	40
遊び方	42
テレク テトブ (イタドリの笛)	43
つくり方	43
遊び方	44
セイピラッカ (貝でつくった下駄)	45
つくり方	45
遊び方	50
スズメ踊り	51
遊び方	51
ア・チキリ・テレケ (足引っ掛け)	53
遊び方	53
ホー・チッポ (舟漕ぎ遊び)	56
遊び方	56
おわりに	58
出演者	59
参考文献	60
子どもたちの遊び・遊び道具を展示・収蔵している施設	62

— 凡 例 —

・映像編で入れることのできなかつた解説等も記しました。したがって、文言等で映像編と異なる個所があります。

はじめに

かつてアイヌの子どもたちは、生きるために必要な技術を遊びの中で身につけていきました。輪を棒で突いたり、矢を弓で射て遊ぶことで、輪を獲物に見立て、槍や弓で仕留める練習となります。

漁狩猟や植物採取を主な生業としてきたアイヌの人たちは、子どものときから遊びの中で、大人のまねごとをし、生活の知恵や技術を身に付けていったのです。



蝦夷紀行図
函館市中央図書館蔵



アイヌ風俗絵巻
函館市中央図書館蔵



蝦夷漫画
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構蔵

本マニュアルでは、11種類の遊びと道具のつくり方をご紹介します。
今回は、釧路市阿寒町の子どもたちと、平取町の子どもたちが遊びを再現しました。

アカム・カチュ (輪突き) ウコ・カリブ・チュイ (投輪突き)

はじめに、アカム・カチュ (輪突き) とウコ・カリブ・チュイ (投輪突き) という遊びを紹介します。

アカム・カチュは、つる輪を転がして、棒で突き刺す遊びです。(写真1)



アカム・カチュ (輪突き)

写真1

ウコ・カリブ・チュイは、つる輪を投げ上げ、棒で受ける遊びです。(写真2)



ウコ・カリブ・チュイ (投輪突き)

写真2

二つの遊びで使われる道具は、カリプ（つる輪）
とカリペペカプ（輪刺し）です。
（写真3、写真4）



写真3



写真4

平取での作り方と阿寒でのつくり方を紹介します。

【道具のつくり方】 カリプ (つる輪) (平取)

カリプをつくります。ここでは平取のつくり方を紹介します。



写真5

材料の採取

- ①カリプの材料は、コクワです。
子どもたちにとっては材料を採取するところから、遊びとなります。
(写真7)



写真6



写真7

- ②今回はブドウヅルを使います。大きめの輪をつくるため、太いところで直径1.5cm～2cmほどのつるを選びます。
(写真8)



写真8

つくり方

- ①ブドウヅルを直径40cmの輪にします。
重なる部分があるので6cm～7cm長めに切ります。
(写真9)



写真9

- ②外皮をむき、細かな枝を切り落とします。
(写真10)



写真10

- ③つるを輪にした際に重ねた部分を揃えるため、両端を斜めに削ぎます。
(写真11)



写真11

- ④紐を固定させるため、三角の切れ込みを一箇所入れます。(写真12)



写真12

- ⑤重なっている部分を麻ひもで縛ります。(写真13、写真14)



写真13



写真14

⑥2か所結びました。(写真15)



写真15

⑦完成です。色々な大きさのカリプをつくりました。(写真16)



写真16

今回、カリプを結ぶ紐は麻ひもを使用しましたが、かつてはシナノキやオヒョウニレの内皮をよってつくった紐を使いました。

【道具のつくり方】 カリプ (つる輪) (阿寒)

カリプをつくります。

ここでは阿寒のつくり方を紹介します。



写真17

材料の採取

- ①カリプの材料は、ブドウヅルです。
ブドウヅルを採取します。



写真18

- ②太い部分と細い部分を使うため、長めに切ります。



写真19

③採取したブドウヅルの外皮をむきます。



写真20

④ブドウヅルの直径は太いところで1.5cm～2cm、細いところで、1cm弱です。



写真21

⑤タコ糸となた、平刀、切り出しを用意します。
(写真22、写真23)



写真22



写真23

つくり方

様々な大きさのカリブをつくります。

①まずブドウヅルを15cmほどの輪にします。



写真24

②端を4cmほど重ね、木綿糸がゆるまないようしっかり巻きつけていきます。
ブドウヅルの端は、削がずにそのままにしておきます。



写真25

- ③ブドウゾルは熱するとやわらかくなります。
柔らかいうちに形を整えます。
冷めると元のように固くなり、
形が固定されます。



写真26

- ④大きな輪をつくります。直径40cmの輪を
つくり、輪の太さを揃えるため、端をなな
めに削ぎます。(写真27)



写真27

- ⑤斜めに削った両端を合わせ、紐で結びます。
(写真28)



写真28

- ⑥同じように中くらいの大きさの輪をつくり
ます。
太さはおよそ1cm、直径は27cmほどです。
カリブは獲物と見立て、カリブの大きさは獲
物の大小を現しているといわれています。
(写真29)



写真29

【道具のつくり方】 カリプペカプ (輪刺し)

材料とつくり方

カリプペカプをつくります。
今回はカワヤナギを使います。直径が3cm～4cmほどで幹がまっすぐでやや太めの枝がついたものを選びます。



写真30

①長さは1m30cmから1m50cmほどで、子どもたちが使いやすい長さにします。カリプペカプは山獺で使う、エキムネクワ (山杖) を見立てたものです。



写真31

【遊び方】 アカム・カチュ (輪突き)

道具はカリブとカリブペカブを使います。

- ①アカム・カチュは、カリブを転がす側とカリブペカブで突く側の二つのグループに分れます。



写真32

- ②直径40cmのカリブを使います。
転がしたカリブをカリブペカブで突き、すくい上げます。



写真33



写真34

転がす側と突く側を交替して遊びます。この遊びは、狩りや魚をとるための練習です。スピードをつけたり、ゆっくりと転がしたりと、転がす速度に変化をつけて楽しめます。

【遊び方】 ウコ・カリプ・チュイ (投輪突き)

カリプとカリプペカブを使います。

- ①ウコ・カリプ・チュイ (投輪突き) はカリプを投げる側とカリプペカブで受け取る側の二つのグループに別れ、数m離れます。



写真35

- ②投げる側はカリプを高く投げあげます。



写真36

- ③受け取る側は、数人いて、競い合ってカリプを取ります。



写真37



写真38

ウコ・カリブ・チュイ（輪突き）は、アカム・カチュ（輪突き）と使う道具が同じですが、カリブを投げ上げて突くので、アカム・カチュより少し難しくなります。

地域によって色々なルールが考えられていたようです。

カリブを受けとった側が、投げた側と入れ替わったり、カリブを投げ合って、うまく受けとることができないと1人捕虜に取られ、誰もいなくなると負けになるなどのルールがありました。

今回は中くらいの大きさのカリブを使っていますが、上手になるにつれて、カリブを大きなものから小さなものにしていきました。

ウコ・カリ・カチュ (ケン玉遊び)

カリブと枝のついた木を使った遊びです。
今でいうケン玉遊びです。
木の先に紐を結び、片方をカリブと結びます。



写真39

遊び方

①紐のついたカリブを投げあげ、枝のついた木で受け止めます。



写真40



写真41



写真42

ケン玉遊びは室内でも、屋外でも遊べます。ひとりで遊ぶものですが数人で競ったりしました。受ける木は枝のついた木だけではなく、まっすぐのものもあります。

ク・エ・シノッ (的射ち・輪射ち)

道具はク (弓) とアイ (矢) を使います。



写真43

【道具のつくり方】ク (弓) (平取)

ここでは平取のつくり方を紹介します。

材料の採取

①ク の材料には萩を使います。



写真44

②萩は高さ2mほどで太い枝がない、節の少ない木です。



写真45

③直径2cmほどの萩を選びました。

真っ直ぐな部分を残して、まがったところなどは切り落とします。



写真46

④1m50cmほどに切ります。必要な長さより少し長めです。曲げてみると弾力があり、よくしなることがわかります。



写真47

○タコ糸、刃物（のこぎり、なた）を用意します。



写真48

つくり方

①萩の皮ははがさずにそのまま使います。
用意した萩の両端に糸をはさむ切れ目を入れます。



写真49

②クカ（弓糸）はタコ糸などを使います。
片側にクカを結び、もう一方を結ぶときは木をしならせてクカを巻きつけて結びます。



写真50

③クの長さは使う子どもたちの体格に合わせてるとともに、木のしなり具合を見て決めます。(写真51)



写真51

今回つくったクは長さおよそ1m20cmです。
立派なクができました。



写真52

【道具のつくり方】ク(弓) (阿寒)

材料と道具

クをつくります。
ここでは阿寒のつくり方を紹介します。

- ①今回ク(弓)の材料は萩をつかいます。
長さは1m20cm～1m30cm程度で子どもの
体格に合わせます。



写真53

- ②ク(弓)の材料として、麻紐を使います。
(写真54)



写真54

- ③刃物 (なた、平刀、切り出し) を用意します。
(写真55)



写真55

つくり方

- ①萩の木の片側の端は外周に浅く溝をつけます。
反対側は細く削ります。
(写真56)



写真56

- ②片側にクカを結びます。
次にしならせ反対側にクカを巻きつけて結びます。
(写真57、写真58、写真59)



写真59



写真57



写真58

完成です。(写真60)



写真60

【道具のつくり方】 アイ (矢) (平取)

アイをつくります。

ここでは平取のつくり方を紹介します。

つくり方

- ①材料はヨモギです。根本側を斜めに削ぎ、矢尻にします。(写真61)



写真61

- ②反対側は山形に削り、クカをかける部分をつくります。(写真62)



写真62

- ③芯の柔らかい部分を爪で掻きとります。このくぼみにクカをかけてつかいます。(写真63)



写真63

【道具のつくり方】 アイ (矢) (阿寒)

アイをつくります。

ここでは阿寒のつくり方を紹介します。

材料と道具

制作に必要な道具は、茎を削るための刃物です。

材料はヨモギです。ヨモギはとても霊力の強い草と考えられており、各地で魔除けとして利用されてきました。



写真64

つくり方

①アイの長さは80cm～90cmです。

葉を削ぎ落とします。

(写真65)



写真65

②根本部分は斜めに切り落として矢尻とします。(写真66、写真67)



写真66



写真67

③反対側は山形に切り、芯の柔らかい部分を爪で掻き取ります。



写真68

④完成

クとアイは狩猟民族でもあるアイヌの人たちにとっては特に大事な道具です。
子どもたちは遊びの中でクとアイの使い方を学びました。



写真69

【遊び方】ク・エ・シノツ (的射ち) (阿寒)

クをつかってアイを的に射ちます。

- ①的には「柴草」を束ねたものを使い、木の枝にぶらさげます。



写真70

- ②矢のくぼみにクカを引っかけた弓を引きます。
※必ず的の周囲に人がいないことを確認してから遊んでください。



写真71



写真72

③弓を構える際、弓は4本の指でしっかりと固定し、矢は人差し指ではさみます。



写真73



写真74

かつて、子どもたちも実際に大人とともに狩猟・漁猟に出かけました。
遊びを通して、大人になるために必要な技術を養っていったのです。

【遊び方】 ク・エ・シノツ (的射ち) (平取)

- ① 的は毛皮などの大きなものからホタテの貝殻など小さなものまで様々です。
冬には雪でウサギの形を作って的にしました。



写真75

- ② 的との距離は最初は近くから、上手に射れるようになると、距離を伸ばしていきました。



写真76

- ③ 腕をみんなで競います。



写真77

【遊び方】 ク・エ・シノツ (輪射ち) (平取)

カリブを狙ってクで射る遊びです。

道具はカリブ (つる輪) とク (弓)、アイ (矢) です。

- ①1人がカリブを転がし、数人は転がしたカリブの中を通すようにアイを射ます。

(写真78)



写真78



写真79

この遊びが上手にやれるようになって、はじめて小鳥やウサギ、狸を目標にしたり、草むらの中に忍んでシカに近寄っていったといいます。みんなで競い合い、上手になると、カリブからの距離を広げます。カリブを獲物に見立て、遊びを通して狩りの練習をしてきたのです。

オペ・シノツ (ニッキ遊び)

材料の採取とつくり方

カックイ (差し杭) をつくります。



写真80

○材料はカワヤナギやイタヤカエデなどを使います。

①今回使用した材料はイタヤカエデです。

やや太めの枝がついたものを使います。

イタヤカエデはきめが細かく、固くて重いことが特徴です。



写真81

②枝のついた部分から少し下を切り落とします。幹の太さは4cmから5cmです。



写真82



写真83

- ③根本側の先を地面に刺さりやすくするために、削り、尖らせます。



写真84



写真85

- ④カックイの形は片仮名のレの字型や、真っ直ぐのものがああります。自分に合った形をつくるので様々な形があります。



写真86

遊び方

- ①遊ぶ場所はカックイが刺さりやすい砂地や柔らかい土のあるところで、3人から5人ほどの人数で遊びます。



写真87

- ②それぞれに自分のカックイをもち順番に投げて地面に突き立てます。
まず最初の子がカックイを投げつけて突き立てます。



写真88

- ③次の子が自分のカックイで相手のカックイに打ち当て、倒すと取り上げます。



写真89

この遊びを通して、狩りの際に、獲物に命中させる集中力を高めていったのです。

テレク テトプ (イタドリの笛)

山で遊ぶ子どもたちには植物等も格好の遊び道具になります。
イタドリは山野では良く見かける植物です。

つくり方

材料

イタドリをつかいます。中が空洞になっていて節があることを
利用して笛をつくります。

(写真90)



写真90



写真91

①節を残して一方はその節から10数cmのところまで、
もう一方は節のすぐそばで山形に切り落とします。



写真92

②長い方の切り口は、歌口となります。



写真93

遊び方

①下唇を当て、息を吹き込むと音がでます。



写真94

②筒の大きさや長さの違いで、音程が変わります。
太いと低い音、細いと高い音が出ます。



写真95

③イタドリ一本から、数本の笛をつくることができます。ナイフ等の道具があれば、子どもでもつくれます。吹き方も簡単なので、小さな子どもでも一緒に楽しむ事ができます。



写真96

セイピラッカ (貝でつくった下駄)

つくり方

材料

ホッキガイの貝殻、萩、麻縄を使います。



写真97

①貝に縄を通す穴を開けます。

萩の先を火に入れます。(火を扱う際は、必ず大人と一緒に行って下さい)



写真98



写真99

- ②赤くなった萩を、貝殻を伏せた形で一番高いところに当てます。



写真100



写真101

- ③この時、息をふきかけながら温度が下がらないようにします。
熱した場所がもろくなり穴を開けやすくなります。
(やけどに注意して下さい)



写真102

- ④数分熱して裏側に黒くしみができたら、釘のような、先のとがったもので直径1cmほどの穴を開けます。



写真103



写真104



写真105



写真106

⑤もう片方の貝殻にも同じように穴を開けます。(写真107、写真108)



写真107



写真108

⑥一尋を測り、縄の長さを決めます。
一尋とは、両手を上げた時の両手間の長さです。



写真109

- ⑦外側から縄を通し、裏側で結び目をつくります。
もう片方も同じようにします。
(写真110、写真111、写真112)



写真110



写真111



写真112

- ⑧完成です。(写真113)



写真113

遊び方

- ①セイピラッカの上に足をのせ、下駄を履くように足の親指と人差し指の間に縄をはさみます。
(写真114、写真115)



写真114



写真115

- ②縄を手に持ち、手と足をともに動かしながら歩いたり、走り回ります。



写真116

下駄のように履く、セイピラッカは歩くだけでも楽しいものですが、みんなで鬼ごっこをしたり、競争したりして遊びました。今回は、ホッキガイを使いましたが、ホタテガイやカワシンジュガイといった貝殻も使われました。

スズメ踊り

小鳥の動きをまねて遊びます。

遊び方

- ①「スズメ踊り」は、前後に2人並びます。
前の子どもが小鳥の役です。
(写真117)



写真117

- ②後ろの子どもは、前の子どもの頭のとっぺんの髪の毛をつまんで持ち、スズメ踊りの唄を繰り返し唄います。
(写真118)



写真118

- ③小鳥になった子どもは両腕を横にのばして、手をバタバタさせながら動き回ります。
小鳥が痛がって羽ばたいているようすを表現しています。(写真119)

「サーポー タプカラ キーキ
エ コタヌン タプカラ キーキー」(繰り返し)

歌詞に特別な意味はありません。
繰り返し楽しんで歌う唄です。



写真119

ア・チキリ・テレケ (足引っ掛け)

遊び方

ア・チキリ・テレケは数人で足を組み、はねて遊びます。

数人が後ろ向きになって片足を組み、もう一方の足ではねて引っ張り合いながらぐるぐる回ります。3人以上で遊びます。

① 4人の場合。最初のひとは片方の足を膝から曲げます。(左右どちらの足でも良い)

イラスト：①、②



② 次の子は足を最初の子の足首の下に入れます。

イラスト：③、④



③3人目も同じように、2人目の足首の下に曲げた足を入れます。

イラスト：⑤、⑥



④最後の子は最初の子のふくらはぎの上に足首をのせて組みます。

3人以上いれば遊ぶことができます。

イラスト：⑦、⑧



人数が多くなっても足引っ掛けで遊べます。
道具もいらず、集まった子どもたちみんなで遊べます。
足が外れて転んだ者が負けとなります。



写真120

ホー・チッポ (舟漕ぎ遊び)

遊び方

舟を漕ぐ様子を遊びに取り入れたものです。

- ①二人が向かい合って腰を下ろし互いの足を合わせます。そして両手を握り合います。



写真121

- ②唄に合わせて手を引きあって体を前後にゆすります。
「アンカヤ チッポー ホー チブ
ソーリリ カッター チョーブ ニ」
(繰り返し)



写真122

- ③繰り返す唄に合わせて、2人で息を合わせて舟を漕ぐような動きを続けます。



写真123

- ④頃合いを見計らって、歌詞の「チョープ ニ」のところで引く側が強く引き、引かれた側は大きく転がり込みます。



写真124



写真125

おわりに



ヘカッタラ シノッ 子どもたちの遊び

アイヌの子どもたちは遊びの中から生活に必要な技術を学んできました。

遊びはモノづくりや狩猟、漁猟の技術、精神力や忍耐力を養うなど大人になるために必要な訓練でもあるのです。

家の近く、山の中、谷や川、海など遊ぶ場所は様々なところにありました。

アイヌの子どもたちは遊びを通して知恵や勇気、儀礼の意味、そして集団行動での自分の役割を身につけていったのです。

そこには温かく時には厳しく見守る大人がいました。

その大人たちもかつて子どもだった時、同じように、大人に見守られながら大いに遊んできたのです。アイヌの子どもたちは大人のまねごとをすること、楽しく遊ぶことで、自らの生活文化を受け継いできたのです。

出演者

【阿寒町】

(敬称略)

秋辺 日出男
郷右近 貴子
郷右近 寛
郷右近 仁
平良 咲季
平澤 真大
平澤 真臣
廣野 大地
藤戸 雄太

【平取町】

(敬称略)

貝澤 守
関根 健司
小山内 瑞希
小山 哲汰
小山 椎名
小山 和馬
笠原 萌花
関根 摩耶
安田 千幸
安田 千哉
松橋 彪太
松橋 哲太

参 考 文 献

子どもたちの遊びと道具の製作にあたって参考となる文献をいくつか紹介します。

- 北海道アイヌ古式舞踊連合保存会
1987：『北海道アイヌ古式舞踊・唄の記録』昭和60年度北海道古式舞踊連合保存会委託事業
- 高倉新一郎
1973：『アイヌ絵集成』番町書房
- 佐々木利和・谷澤尚一
1982：秦 穂麿自筆『蝦夷島奇観』株式会社雄峰社
- 佐々木利和
1996『蝦夷漫画 解説』松浦武四郎記念館
- 財団法人アイヌ民族博物館
1994：『描かれた近世アイヌの風俗』図録 財団法人アイヌ民族博物館
- 佐々木利和
2004：『アイヌ絵誌の研究』株式会社草風館
- 西川北洋
1954：天然生活と資源の活用『アイヌ風俗絵巻』郷土美術工芸
- 萱野 茂
1978：『アイヌの民具』「アイヌの民具」刊行運動委員会
*現在、出版されているのは、株式会社すずさわ書店版
- 大塚和義
1991：『蝦夷風俗圖式 蝦夷器具圖式 元旦記』株式会社安達美術
- 財団法人アイヌ民族博物館監修
1993：『アイヌ文化の基礎知識』株式会社草風館
- 藤村久和
1985：『アイヌ、神々と生きる人々』株式会社福武書店
- 福岡イト子・旭川竜谷高等学校
1990：『上川アイヌの研究』福岡イト子・旭川竜谷高等学校
- 更科源蔵
1983：『アイヌの童戯』更科源蔵アイヌ関係著作集Ⅷ みやま書房
- アイヌ文化保存対策協議会編
1969：『アイヌ民族誌』第一法規出版株式会社

子どもたちの遊び・遊び道具を展示・収蔵している施設

子どもたちの遊び・道具を展示、あるいは収蔵している施設をいくつか紹介します。

◎北海道内

- 阿寒アイヌコタン 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目7-19
- 萱野茂・二風谷アイヌ資料館 平取町字二風谷79-4
- 財団法人アイヌ民族博物館 白老郡白老町若草町2-3-4
- 札幌市アイヌ文化交流センター
「サッポロピリカコタン」 札幌市南区小金湯27
- のぼりべつクマ牧場 ユーカラの里 登別市登別温泉224
- 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 沙流郡平取町二風谷55
- 北海道開拓記念館 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
- 帯広百年記念館
アイヌ民族文化情報センター「リウカ」 帯広市緑ヶ丘2番地

◎北海道外

- 国立民族学博物館 大阪府吹田市千里万博公園10-1

アイヌ生活文化再現マニュアル
子どもたちの遊び
【ヘカッタラ・シノツ】

2012年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (5階)

TEL(011)271-4171/FAX(011)271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。